

公表	保育所等訪問支援事業所における自己評価総括表
----	------------------------

○事業所名	LEGON Kids天満月組			
○保護者評価実施期間	2024年 7月 1日		～	2025年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数)	8人
○従業者評価実施期間	2024年 7月 1日		～	2025年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数)	8人
○訪問先施設評価実施期間	2024年 7月 1日		～	2025年 3月 31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	8人	(回答数)	4人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・保育所等訪問支援に専門職が対応することで、より専門的に実態を把握できる。 ・LINEを使って保護者様と身近に連絡を取ることができる。 ・児童福祉経験5年以上の経験豊富な職員や、PT、STが在籍している。 ・保育所等訪問支援での出来事は職員間で共有し、今後の支援活動に活かすようにしている。	訪問支援に行く職員に、児童のどんなところを見てきてほしいかなどの相談をしている。 ・ご家庭での様子やご希望を伺いながら、無理のない形で成長をサポートできるよう工夫しています。 訪問に行く前に、児童の実態や訪問先についてあらかじめ調べます。 ・その日の終礼時に報告の時間を取り、職員に内容を共有できるようにする。	・情報共有の徹底。 ・訪問支援に行った際、少しでも児童に還元できるよう常に勉強しておく必要があると感じます。 ・心理士、OTが必要と考える。
2	・コンスタントに保育所等支援ができることで、ライフステージが変わるタイミングでの、児童の特性を理解した、環境調整や支援法の検討ができる。 ・専門職が随時配属されており、児童の特性や支援ニーズに応じた専門的な対応ができる体制を整えている。	・担当職員が定期的に保育所等訪問支援ができるよう、各自が持っている仕事の調整や児童の特性を理解する。 ・児童一人一人の特性や支援ニーズに応じた適切な支援を提供できるように職員間で情報共有を行っている。 ・保護者に事前に保育所等訪問支援に行くことを連絡し、どのような部分に着目して訪問に行くかを明確にしている。保護者とはフィードバックの時間を作り、支援の内容を伝えるようにしている。	・各自が持っている仕事の調整。 ・児童の特性を理解。 ・保護者とも連携を深め、専門的な視点からアドバイスを提供することで、家庭と連携した支援を目指す。
3	・個別フィードバックをしている。 ・多職種が訪問することにより、ニーズに合わせて専門性をもって支援を行える点。 ・保育所や学校と連携し、情報を共有しながら事業所ではない場所での集団生活の様子を観察している。	・日々の活動の中で気づいたことや支援したことなどを早期にフィードバックすることで、児童の学校での困りごとなどの情報共有がしやすい。 ・保護者様や訪問先との関係性も含め、複数の職員が支援に伺うことで多様な視点から支援を行えている。	・個別フィードバックの作成時間の確保。 ・有資格者による、強度行動障害児童に対する訪問支援の検討。 言語聴覚士、理学療法士やそれぞれの職員の経歴を生かした、より綿密な情報共有と計画の作成。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・他職種間での連携が不足している。 ・心理士、OTがいないこと。 ・施設によっては遠方の場合もあり、移動時間がかかる。また、施設側のスケジュールに合わせる必要がある為、支援できる時間に制限がある。	・朝礼などで、個々に支援内容を考えるよう言われるが、ひとりの児童に対して職員みんなで同じ支援をする必要があるのではと感じる。訪問支援の情報共有に対して、対策や支援法の検討が足りないように感じる。	・職員間での意見交換。 ・スタッフ間の情報共有を徹底し、効率的な支援ができる体制を構築する。
2	・他事業所との連携が不足している。	・他事業所と併用利用の児童に対する支援が統一していないように感じる。 ・各職員が保育所等訪問支援に対してより知見を広げる必要がある。	・普段から児童の情報共有をしておくことが大切だと思います。
3	・支援内容の充実が必要。	・シフト制であることや、児童の情報があまり載せられていないこと。 ・施設側のスケジュールに合わせる必要がある為、限られた人員の中で効率的に支援を提供しなければならない。	・職員同士が同一の訪問先へ伺う機会を作る等を行い、スキルアップの機会を作る。 研修等への参加の機会を増やす。